

生かされた命

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校3年 柳 靖奈

「靖奈は生まれてから小学校低学年になるくらいまで、本当に体が弱くて頻繁に病院に通っていたから、子ども医療費助成制度があつてとても助かったのよ。」

この作文を書くにあたり、税金についてどのようなイメージを持っているか母になにげなく尋ねたところ、このような答えが返ってきた。

全く記憶はないのだが、保育園に通っていた二才頃、夜中に突然四十度近い高熱を出し、一分近い痙攣を起こし救急車で運ばれたことがあった。体の症状から髄膜炎が疑われ脊髄から髄液を取って調べた結果、細菌性髄膜炎という診断が下った。夥しい細菌数で五〇%の確率で何らかの後遺症が残り、三〇%の確率で亡くなるかもしれないので覚悟して下さい、と言われたそう。しかし、先生たちの迅速な診断と適切な治療によって、山場だと言われた一日目の夜を乗り越え、その後徐々に熱が下がっていった。一カ月におよぶ入院生活の中でMRI、CT、血液検査、視力検査、聴力検査、運動神経の検査など、ありとあらゆる検査を行い無事退院することができた。その入院費用は、付き添いをしてきた母の簡易ベッド代と部屋代だけだったそう。なぜそれだけしか払わなくてよかったのだろうか。

それは、私たちが安心して生活していくために必要な医療を受けることができる、「社会保障」という公的サービスがあるからだ。もちろんこれは、税金によって賄われている。

小学校五年生まで住んでいた東京都港区は、中学校三年生まで診察、薬、通院、入院が子ども医療助成制度により無料であり、今住んでいる石川県白山市では十八歳になるまで同様に無料である。なんと心強いことだろうか。

退院後、定期的に検査を受けたが後遺症は全く残らなかった。中学生になり、バスケット部でキャプテンを務められるくらいまで元気に成長した。税金によって生かされたことに心から感謝している。

税金は、私たちが気づかないだけで日常生活に深く浸透している。近所を流れる手取川やそれに架かる橋、砂防ダム、道路、それらの管理や整備、冬になれば除雪車、ゴミ収集や公園、図書館、美術館の利用サービスなど全て「税金」の恩恵である。税金がどれだけ私たちの生活を陰で支えてくれているかが理解できた。一方で、税金がないと私たちの暮らしが成り立たないことも感じた。

十五歳の私たちはまだ未成年で、納税といえば消費税くらいであり、与えられてばかりの生活だが、大人になり働き始めた際にはしっかり納税しようと思う。生かされた命を大切に、社会貢献の気持ちを持ち、皆が健康で幸せに暮らせる豊かな社会を作っていきたいと思う。